



失敗しました…

第6時は「長さの計算」でした。

1. 教科書の問題について

教科書の問題は、場面設定がうさぎとカメの歩いた（走った？）長さをくらべるという問題でした。カメは直線だけど、うさぎが進むところは折れ曲がっていて、たしざんをする必要性が生まれる問題でした。

この学習内容の難しさは、大きく2つあると思います。

- ①単位同士で計算する必要性に気づかせること
- ②たし算の捉え直しがあること

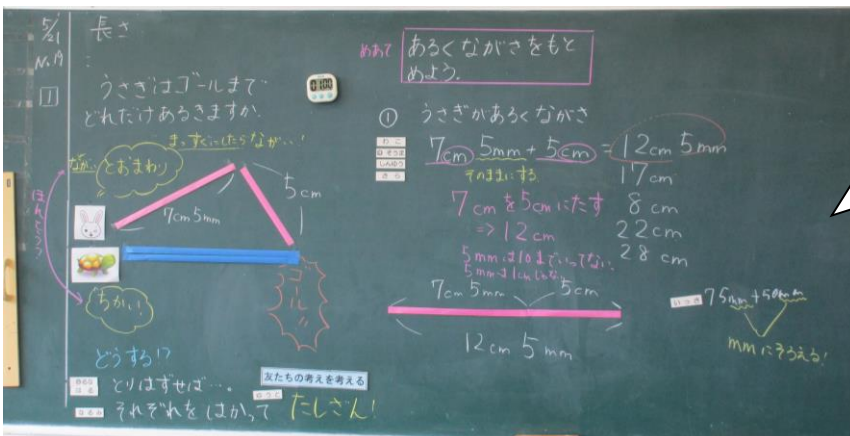
この教師の捉えがのちの「失敗」につながります…。

です。これまで分離量（個・人・枚など）同士の計算しか経験していなかった子どもたちが、初めて連続量（長さ・かさ・面積など）の計算をします。分離量の計算は、ブロックの操作でたし算の意味を捉えることができる（増える、合わせる）けれど、長さのたし算は、数直線やテープ図の「全体をもとめる」ことになります。たし算の捉え直しを行うことのできる学習内容でもあります。

2. 「たせばいい！」というアイデアは出てきたが…

導入では、「うさぎが遠回り！」と子どもが言ったので「本当？どうやってしらべる？」と聞くと、「たせばいい！」という結論になりました。そこで、式を立て、計算しましたが、中央のような、誤答が出ました。ここで、「12cm5mmが正しい理由」を話し合っても、「単位同士を計算する」ことは未習で太刀打ちできないので、教科書の線を測って、12cm5mmが正答だと測って確認しました。そこで「どうやったら、この答えになるんだろう？」と問いました。しかし、「同じ単位で計算する」という発言は出ませんでした。

果たして、「同じ単位で計算する」ことは気づかせるべきなのか、ある程度近い発言が出たら、「教師が教える」ことなのか…。難しいですね…。



結局ここまでで、授業が終わりました…。

cmとmmという長さの表し方は、基準にする単位が違うことが、子どものイメージとして捉えられていなかったことも原因かも…。